二烏城

027
539
1

藏書

027
559
1

愛知女專
第 11770 號
圖書

九二九

三島賦

11770

序

[illegible]

定の好士を寺の古りへ徒らに多川の気と
なりぬ是に旧志の句をもさ二子賊として
世の人もさむくの句こに都会の荘観を壹し
四面の絶景に心を動し時句の君の吟り枕
五月雨の落の形しこを排しやうとなる戯の
切なるを旅の宿の恋乃おりしこを小冊乃趣き
あまたし　東巌山下無一庵有無忌正風述

亭山

家く咲や静に常に驚かし　松籟

日も青くなつ若菜の胡　止鐘

粥雲木に折もハ春に梅く行く　雲後

もう影あしまくく二度や　杞雪

気合ふ待つ頃月も久し衣　柳志

さくハ華山子気招くも来ぬ　白芝

芳地　共動
共鼓　遊之
素雅　霍之
左右　頼如

仙源
蓬洲
共島
太瀛
已極
倫子
霧徑
幾日

あさひかゝ紫雲の如くなる

山嶺

はつ雪のまも梯と年

長車

代豚くさの海やくるまたり

射人

坂の邨まを夜日にくるゝ

寒山

夏の月はれるいつ雪をも

東吳

きさの雪ぶいあるこうくい

格自

八月の氣をたゝうるは和山

共白

書るを荷田の小の溝こ

蘆石

ウ

ゑ雲を長者の費秋ちゝ須

夜樹

樓はきを多る大根を抱

百里

牛を八よろ徑ハ足うすゝるゝ

柳柯

こ月ゝやゝる塚寺青空

仙李

幕車を信切の花雲焼論

新船

ゝよむゝさなる萌衣早蕨

玄郎

戸を明るとうるさきまり吹こ鳥　琴堂

小細や菊の葉ばら露霜　春　塗耳

蕪入の糸琴〻唐る赤一つ白　再蝶

なれ雪やあかく〻てを懸うる蕪　仙泉

鶴の巣や見上〻〻寂さうな　義妖

毒もい底みれあとおうそ毒〻　東朝

きさも東のとぶ〻〻明〻月白　三已

折〻い書よ弱る　雑了　堅麥

五雲
五石
等非
已象
丘流
窩山
奕里
之已

危水
午橋
陰静
白相
百花
蓮朝
五嶺
寧山

住よしの遠山ずるの内千の松　熟柿
養老時を二度のたそがれや山さのぼり　歳我
大繩賣家うゝゝ多の花堂うゝ　魯石
ゐるもまた白一色しの花那ず　芳旭
ゐ秋ま樽もとゝ居るかしず　柳志
行ゐるゐ道すゝ人も泊ゐゐ　石芝
鐘の音のゆゝゝ後の千鳥ず　抱雪
ゐ雪やまゝ西山い青ゐ　雲後

川幅と居る所ゐ　枯野う道　花徑
岡野ゐゐも枯ゐ雪の雲　朱雁
雪の日や雲ゐゐ風ゐ　彩柯
千鳥ゐと海へも鳴ゐ　物外
赤うゝ花ゐる所ゐ　柳絲
織るのゐいや枯ゝ木梢風　梯下
ゐゐもゐい菊の工ゐ　ゐ乗
ゐ見ゝゝい菊工のもゐ　花六

ゆふくれや花ちる川は閑かなり　文阿

川浅きなところやきされ安流　笹女

淵ふる菫咲る日やさ川さ白　芦風

只一夜海郷もをきかの月　平蕪

先㒵の芸しさ秋やおほ星　亜青

ふミぬる庵も角力し山さかる　魚文

入口と舵の棲すやきんな并　梧牙

角六の橋とるりてし蓮の花　乙河

さみたら樗武い佛神ゝ考山　子禅

ほふしや那字の綴ふ静く行　自雨

惣ね綴まさ出く月氣保とし須　徐来

罘ほしれるも裸や門まて見　泉之

五月雨や浮とぬ筆蒙弗花　大来

放子おもるや遠う風おけ小車　朏鳥

神垣と花の舎りや風車　五渓

人先に病るゝ気て行浮干か　采珠

[illegible]書や松見を直し

[illegible]初れ日うゝ眺し雁乃夢　羽州 祇松

[illegible]本と翁ゝ見参り紙の書　加州 茂行

[illegible]みとまる夢よもあ庵や初時雨　壌息

[illegible]おもゝ[illegible]きゝもあり蔦紅　一枝

[illegible]ゝまあ[illegible]ゝ[illegible]ゝ蔦紅　如風

椎の[illegible]体も[illegible]一塚の夢　尸翠

[illegible]小の[illegible]所ありかゝ　平南

英口

東ゝ[illegible]川ゝたぎゝ千鳥ゝ百　羽州 風夕

拾い樂すゝ夕雲や　紅葉の夢　甲州 石牙

山ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ紅葉の言　奥州 東吳

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　武杉戸 有六

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　亀后

小[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　止嶺

[illegible]の日の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　市南

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　素鉄

武羽生

氷

相舎

三市

仙丈

我后

横之

石湖

柳柯

南里

芳口

武忍城下

勤

静

倫子

巳猿

[illegible]　官紀
[illegible]　笑立
[illegible]　里樋（頃か）
[illegible]　麦鳥（保土谷）
[illegible]　青蘿
[illegible]　根糸
[illegible]　止山
[illegible]　呂中

[illegible]　潜竹松　貞鳥
[illegible]　上宮岸　弘江
[illegible]　武八王寺　狐岩
[illegible]　子一
[illegible]　（浜地子）　弄船
[illegible]　（京全）　白林
[illegible]　（越九岡）　八矢
[illegible]　漁舟

約今ゆる瓶泊まること　太瓶
見の寄る郎の出はや角力取、可曾　青郎
持佛ハ如房の姫は持明ル　、安食天満庵連　貫白
間を約牛は氣あり花卯木　竹月
新竹の寄る金一雷雲花　寅水
邪ハ向く牛麦初や小竹愛　霞工
所の寄る小雷屋麻一きさの飛　浮白
足をしまあまの花や糸さみち　音つる

向みまく約まぬ橋やかなつきし、　、小川湖口庵連
寒い花の日氣は青さ竹毋ル　左如
遊之
氣ハかとみまい根の竹蓋ら百　勢河
寄る月や雲と地ハく水乃青　亀雫
今為る花ともまぬ橋て百　芝牛
人の寄ともあ乃は出来て山　櫻　藤鉄
柳角いく降りまとと寄ぶ　巴柳
姫と人は寄ら毋乃や山きみら　雲石

、降田五柴庵連

吹止く風さえ寒き蓮の葉　素雅

晴の後もやはらぐ蓮の葉　霞心

蛙鳴くすゆ蓮の葉の中　乃花

蓮の葉の前に側うく　桂林　乗城

、爾来楢月庵連

さうつなの荷鈴も花やワの葉陰　竹道

高くよい揺るる蓮の葉ちあやめうら　山原

家陰に枝を潜るやうつる蓮　湾洲

清揺く蓮の葉や蓮の葉　蘇徑

山川に沈の深き行く蓮の葉　果如

、土浦連

流れ蓮の揺うる高く蓮の葉うし　射人

大根を忍もたのもし蓮の花　花言

うれや鋪さーの揺くふ所うく　杜秀

常よりも軽くうす蓮の葉　乙牛

吹蓮く蓮の上まるる霧うる　龍花

、路地連

早しかも蓮く運くぬうくば　紀堂

白ふまくまるとて花より低　日　竹宇

山かぜや鹿の音も必願より　　夫風

やの間く山の中うつさのこうの面　　奥山

字〜紅や一枝乃字　　海り　　蔭月

根かへまのうつもとりく舞花　　湖花

白ふの字の字俗小部ふて主伝ふ　　長車

風や金乃葉の色小まの東　　白竹

上京新小石元庵

流る見い牛よ後あ花ホ　　源右

名人月や名と蕪の紅乃紅　　竹思

行ぬとく三度の東明や主下閣　　五玉

氣伝の折く見へ音家ホ立　　尼錦

林ふく伝　ふふ寿や主人こう　　笠仁

柿叶ホの七年潤しまの月

甲草：慶運

梅寿

ちの白や本ごの葉と開く青　　之城

廉ゆや芳秀の色添いもつく色　　梅賦

八日さく峠とらへ字家ニの面　　白江

五月白やあたひ叶ホ主ホ名　　梅通

見ぬさいの白うまさかる田植の頃　加茂

出代や別れぬ昨日をえの夢　猪原

その濃しをを浦ひやりんこを　吟登

灯をとく法の花さく深山　山花

如の首をのとゝ頂くす厚中　花明

華の花へ濃るや雲の春　白象

極さくや卓の身炉いぶすも　長義

武藤の氣もをくやちり水　麦度

名月やよりよる鬼若丸　薮仙

猫人の降く高く夜や底の春　桃若

菜をとも寄まるゆるやかなつる　雪之

地をとりゆのおし今ふ義まで　鈴宇

ゆくまるゆもをつ一夜の春うを　伴逸

分おの億ゆとも春く笠扇で　華歌

ちり鉢のみりをつまるゆ雲の御　梅几

面寄の内氣のぶりゝ一都で　桐我

[illegible]　素行
[illegible]　玉枝
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　一瀑
[illegible]　[illegible]
[illegible]　一元

[illegible]　仙流
[illegible]　宇白
[illegible]　玉泡
[illegible]　義河
[illegible]　井魚（加州）
[illegible]　[illegible]（松代）
[illegible]　源矣（江戸）
[illegible]

桶沼を過ぎて百宇ばかりの苔清水　門夢
晨星の命きたりしかば一巻を南　巷河
東を望む人煙いまだ霧すらず　鳥明
霧見や東雲ひろがるを踏分ける　石明
伸るほど伸まほどの青田うつ　字石
ぶきをとゝ撒くゝ高の小鈴の音　紫居
涼のなかに日ぶ遅くなりやすの岸　尺五
絶るなくや山元とゝ明時ゝ明時　止観

訳田　至芳

墓所へ出とゝ行る時千鳥の南
東ゝ雷雨の時を告げまま　止観
分ぶを信ぶを無念とゝ思事　急水
低をいうぶる杉ゝ長ゝ松し　白相
訪を見聖ゝ明貴ゝ書ゝ　陂静
一巻二巻の巻ゝ明年　五嶺

横川から見おろす秋ハ果かな　石花

乳母と児と鷭なく夜か　可英

名都ニ被居下をむすひ髪　花六

片側壕列松の今町　蓮湖

務おゝ踊くる虫の声涼　狐皆

若ひよ戸を耶麿まさるゝ　黄口

扇子ハ明地かゝ込りの月　低松

今さく萩ハ森の下草　五乙

秋風ニ堅乃こは敷家屋哉　麦鳥

お詫ハ誰とたつき一口　素秋

散花を打きしひ斗る呑ハなら　仙泉

尊翁の浴ニ朱の端籍　眼糸

時分きさて御将の茶ニ至ゝ幟　亀后

嫁を戸桐の香ニよ系当　青六

急り人ニ高ゝ章風を律義也　柳緑

鏡ヲ手早し女の間ゝ　市南

白もの好く祭礼俄る　星桂

浪を分きて大坂　如風

浮僧の和睦の用ふるを終　汁南

菜摘くかく藝を尋ねて　里翠

糧めを晩いしらと罠提く　一枝

叶白い小丁白い西山　茂竹

常磐といふ伊勢松の名ふく　曦良

吉さ国ゆきまくこ之岩　永后

さくやなの枝いゆきを駆ける　相舎

家のお国よいちゐ人八　共水

拾ふ赤と緑と高くい和歌い　徳石

汗ふちくの毒も裳たい　之市

一重花裏い枝く花の雪　午橋

見くても遠いきの川青　寄山